



TPKF三役熊本地震被災教会訪問（中央は熊本南教会濱田隆牧師夫妻）

「聖霊と私」

守山キリスト福音教会 上田勇矢



聖霊とは誰なのか。ヨハネ14章26節から、聖霊とは、「私たちがイエス様を知り、その言葉を理解することを通して、この世が与えられない平安を与えてくださる存在」だとわかります。

私は14歳で水のバプテスマを受けましたが、そこから3年間「聖霊が与えられない（この場合は異言のこと）」という悩みに苦しみました。新生したはずなのに、何も変わらない生き方。誘惑に負け続け、悔い改めの連続の中での奉仕も申し訳なく。「彼に聖霊を与えてください！」という友の涙と叫びの祈りを聞いて、泣けば与えられるのか！と頑張って自分を惨めにし、叫べばよいのか！と勘違いもし、疲れてしまった17歳の夏、「誰に祈られても関係ない。与えてくださるのは主だ」と、目を閉じて、按手の祈りを受けたとき、聖霊の喜びが内側からあふれだしま

した。その時からの一番の変化は「主は本当にもにおられる」という確信があることです。

イエス様についての知識止まりではなく、イエス様を知り、従い、ともに生きることを選ぶためには確信が必要で、聖霊がそれを与えてくださいます。また、聖霊は何が罪であるかを教え、頑固さを捨て、悔い改め、謙遜を教え、もう一度仕えられるように助けます。そして、聖霊との関係は「昔はよかった」という話ではなく「今」が重要です。私は、かつて「聖霊の導きのままに」と言って無責任な者でした。今は、主に聴く祈りの中で全力を尽くそうと努力しています（救われる努力はいらないが、従うための努力は必要）。また世から影響されるのではなく、世に神の影響（栄光）を現すものとして、「主よ。世が与える Good Ideaではなく天からの God's Idea」を下さいと祈ります。

聖霊に頼らせない力は、自分の内から、また快楽や誘惑、人の言葉から、四方八方からいつもやってきます。だからこそイザヤ30:15のごとく、主の前に立ち返り、静まります。その時、私たちは力を得て救われるからです。

2015年4月に発行されたNo.11号の記事で、モンゴルで自動車事故に遭い、ダルハンの病院に運ばれたけれども、異常がなかったことを記しました。

その医師は「あなたが3日後に首都ウランバートルに帰っているならば、病院に行って抜糸をしてもらいなさい！」と通訳の方を通して言いました。そして、3日後にウランバートルに戻り、韓国系の大きな病院に行って、抜糸をしてもらうことになったのです。抜糸をしてもらいましたが、傷の跡に縫った派手なブルー色の糸は、私の髪の毛を染めていました。

一方、ウランバートルまで戻ってから私が出した「全ては順調です」のEメールを日本で受け取った妻は「何かおかしい！」と直感的に思い、独自の調査を開始しました。私はその頃、何も無い時には妻に連絡を取りませんでしたから、「全ては順調です」というメールも出すことはなかったのです。(実は、今この原稿をモンゴルで書いていますが、今は自分のパソコンやスマホを通して自由にメールを送ることができます。そればかりか、LINEを通じて日本にいる妻と無料で電話ができます。しかし、当時(15年前)はWi-Fiもなく、Eメールができる場所は限られていました。もちろんスマホもありません。)

そこで妻は、当時アジア・アウトリーチ・ジャパンの議長をしてくださっていた小山大三先生に連絡し、事故があったことを知るに至ったようです。



その後、日本に帰って教会の集会に出席しました。妻を通して祈ってくださっていた教会のメンバーに温かく迎えられました。教会には看護師をしていらっしゃる方もいて、私を見ると驚いたのです。「先生は、頭を怪我して縫ったと聞きましたが、どこですか？」そこで、パンクロックの歌手のようなブルーの頭を指して「ここです」というと、「え？髪を剃らずに縫ったのですか？日本では信じられない！」確かに、言われてみればその通りです。

もう一度「地球の歩き方」を読むと「モンゴルの医療事情は良くないので、特別なことがない限り医者にはかからない方が良い」との説明がありました。それで……

(続きは次回に。)

東日本支援特集 東日本支援の旅2016 レポート

震災から6年目の支援

—— 牧師、中学生、大学生5名チームにて ——



守山での礼拝後、新潟、仙台を経た3日目、大船渡市のグレイスハウスから米崎小学校仮設へ。校庭に仮設住宅が並んでいる風景を見ると、本当に何とも言えない気持ち

になりました。自治会長さんの言葉からは、震災に対する怒りや「あの高さの津波が来ることは予測できたはずなのに」という悔しさが滲み出ているような気がしました。同じ地域に住みつづけることへの不安を質問すると、「日本で安全と言える場所はどこにもない。何かが起こった時に、周りに知っている人がいて、どこに逃げたら良いか分かっていることが一番安全」と。私がお隣に座ってお話した方は、後からこの仮設に入られて他の住民の方となじめず、本当は集まりに来るよりも、家にもって手芸するほうが好きだと言いながら、最後には「楽しかった、また来てね」と笑顔で言ってくださいました。主来くんの肩もみも大好評でした。4日目、大立仮設では、「最後まで来てくれるのは教会の人。他の人はもうなかなか来てく

れない」とおっしゃっていて、東北に足を運んで、忘れていないことを伝えるのはとても大切で、励みになることなのだと思います。



去年も訪れた後ノ入仮設でSさんは津波で家は流されてしまい、動物を連れていたので避難所にも入れず、単独で住むところを探して生活されたそうです。「もうあんな思いは二度としたくないね。子供たちにも絶対に味わってほしくない」と凄まじい経験をされて、今なおその中におられるのだと痛感しました。

私たちは、ただたこ焼きやコーヒーをふるまい、賛美や証、メッセージをしたわけではありません。むしろ、自分自身も神様の愛と恵みを一緒に受け取り、チームとして生活する中で毎日分かち合いと祈りの機会が与えられたことは本当に感謝で、素晴らしいチームワークで主の働きに携わることができたことは大きな喜びでした。(大同初穂姉レポート要約より)

熊本地震被災地教会訪問

単立ペンテコステ教会フェローシップ三役、中見透議長、小山大三副議長、置田信也書記は、7月19日(火)から22日(金)まで熊本地震の被災地を視察しました。日本リバイバル同盟事務局長久保みどり先生も同行されました。現地は、ブルーシートに覆われた屋根や、立ち入り禁止のロープがまかれた建物が、あちこちに見られます。



朝7時 ボランティアの打ち合わせ



小山大三先生
ボランティアの祈り
会でのお勧め

窓口となる熊本ハーベストチャーチ(中村陽志牧師)は、被災した中で近隣の教会と協力して「九州キリスト災害支援センター」(以下、九キ災)を立ち上げ、被害情報の発信や、救援物資、献金、ボランティアの受け入れなどをされています。その「九キ災」熊本支部としてボランティア活動のベース基地となっているのが植木キリスト教会です。訪ねた日も、20名以上のボランティアが、朝の祈りの後で支援活動に出かけて行きました。小山師が祈り会でお勧めの奉仕をされました。



植木キリスト教会九州キリスト災害支援センター

被害の大きかった益城町にあるエリムキリスト教会(濱田龍口郎教会代表)では、毎日ラーメンの炊き出しを行い地域の人たちの励ましになっていました。



熊本ハーベストチャーチ中村陽志先生(右から二人目)



益城エリムキリスト教会

同じ地域にある木山キリスト教会（小田眞由美牧師）は、「九キ災」の支援センターでもあります。震災の後、地域の方々が、礼拝に参加されたり道で牧師に声をかけてくれるようになりました。



木山キリスト教会益城町ボランティアセンター（小田眞由美牧師）



熊本東聖書キリスト教会

熊本東聖書キリスト教会（豊世武士牧師）は建物がすっかりつぶれてしまいました。

市内の川尻キリスト教会（高口喜美男牧師）の付近では、地割れや液状化現象が起きました。教会の納骨堂は傾き、会堂

にもひびが入り、筋交いが曲がっていました。



川尻キリスト教会高口喜美男牧師（左から二人目）



熊本ナザレン教会（中出牧夫牧師）では天井が落ちてしまい、会堂で礼拝できなくなってしまいました。業者からは、修理に何ヶ月も待たなければならないと言われました。しかし、教会のメンバーが県外の業者を紹介し、最近やっと修理が終わって、通常通りに礼拝ができるようになりました。



熊本ナザレン教会中出牧夫牧師（左から二人目）

宇土市の熊本南キリスト教会（濱田隆牧師）は、会堂の屋根が壊れ、雨漏りがひどい状態でした。80歳になられる牧師は、新しい会堂の建築のために祈り始められました。

また、地震には直接関係はありませんが、市内の花岡山を訪ねることができました。ここは日本で最初のクリスチャングループ、熊本バンド誕生の地です。記念碑の前で日本のリバイバルを祈りました。

避難所から仮設住宅への移動が始まり、支援活動も次のステップに代わろうとしています。まだまだ助けが必要です。続けてお祈りください。（文書：置田信也）



熊本バンド石碑

義援金を受け付けています！（「熊本地震のために」とお書きください。）

TPKF 義援金の口座

- ▶郵便振替口座 0790-7-46083 口座名義 T P K F
- ▶銀行口座 三菱東京UFJ銀行 出町支店 店番号 506
口座番号 0668994 口座名義 T P K F 置田信也

TPKF 全国各地の情報・報告

〈イースト〉フェロシップデイ

2016年9月22日祝日、毎年恒例の「イーストフェロシップデイ」が御殿場純福音キリスト教会にて持たれました。午前の礼拝に始まり、昼食をいただきながらの交わり、年代別交わり、分科会、乳児からシニアまでのすべての年代のフェロシップを目的とした恵みの一日。午前の礼拝では上田正美先生が「聖霊の導きと人の導き」という題でメッセージをしてくださり、多くの兄姉が励まされました。使徒の働きより伝道者ピリポがエチオピアの宦官との出会いへと導かれ、洗礼へと導かれるところの箇所からとご自身のお証を通して語られました。年代別では同年代の兄姉との分かち合い、励まし合い、祈り合いと素晴らしい交わりとなりました。6つの分科会も用意されこの機会ならではの良い学び、分かち合い、交わりの時となりました。イーストは、このフェロシップを通して年々「和」が強められていることを目の当たりにしています。



「イーストフェロシップデイ」

〈FCMF〉「日韓交流会」

毎年7、8月になると美濃には韓国から短期宣教チームが来てくださいます。いつもプサンから来てくださる二つの教会チームがありますが、今年初めてソウルから「ソウル神学校大学院」の20代、30代学生4人が美濃に来てくださいました。岐阜純福音教会での賛美と証しの奉仕以外にも美濃では集会案内のチラシ配布と他に若いハングル講座の学生たちを招いて日韓交流会の時を持ちました。最初バーベキュー、その後教会の中でレクリエーションをやってまた神学生の証しと賛美を聞く時もありました。参加者の中に双子の姉妹がいましたが、姉の方は8月に開かれた教会の子ども祭りを手伝い、妹の方は別な韓国短期宣教チームと共に日曜日の礼拝に初めて出席していただきました。まったくキリスト教会のことを知らなかった姉妹でしたが、日韓交流会を通して教会に親しみを感じて礼拝に参加して下さったことに感謝でした。(美濃グレースチャーチ 辛海雄)



「日韓交流会」

〈キリスト福音〉KFK 秋季聖会



9月19日、敬老の日、天気が不安定だったのに、京都府亀岡市の道の駅ガレリアかめおかに、190名の参加者が集まった。主講師ボーマン・ルリ子師(写真)は、「恵みを無駄にしない人生」をテーマにして、3聖会で、第一コリント人への手紙15章3節～10節にある福音を語った。「キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと、また、弟子に現れたことです。」神様は、このようにともにおられる救い主を与えてくださっているから、私たちは救い主を相手にする責任があると。クリスチャン生活の体験話を交えながら、恵みボケではなく、御霊に導かれて主イエス様とともに歩むよう参加者を励ました。ピアノ演奏と賛美に現実的な辛口、早口メッセージでアットホームな聖会になった。台風の前祝日だったが、不思議に天気まで守られて、平安の神様に感謝します。

(水口キリスト福音教会 マルク・オリカイネン)

関西聖書学院

2学期が始まり一か月が経過しました。この間のハイライトは神戸で持たれた第6回日本伝道会議でした。テーマは「Re-Vision」。KBI生も関西地区の諸神学校の学生とともにボランティアとして参加し、約2000名の牧師や教会リーダーが集う7年に一度の会議に触れることができ感謝でした。また9月初旬には30～40歳代の若手教師また次世代の教師候補とスタッフの懇談の時を持ちました。やがて彼らが数年先の主力となっていき、共に学生の指導を担ってくださることを期待します。今学期は通常の授業に加えて、幾人かの特別講師が内外から来られます。充実した内容で公開授業となります。3年生たちは半年先の卒業を控えて、奉仕先のこと、その在り方、伝道教会の理念形成に思索と祈りを重ねていきます。また卒論も追い込みに入ります。良い仕上げの時期になるようお祈りください。1、2年生また来春の入学生のためにもお祈りください。(学院長 大田裕作)

TPKF三役より

—代表者会議ピンポイント報告—

9月に岐阜純福音教会を会場に第70回TPKF代表者会議が開かれた。熊本地震被災教会訪問報告が置田信也師よりなされ、今後のTPKF内に災害対策支援体制を作る可能性について話し合われた(継続審議)。今回はNeGワーカーズの上田勇矢師(KFK)、北村聖慈師(EAST)、川内悟師(FCMF)が出席し良い意見交換の時となった。

単立ペンテコステ教会諸教会(名簿順)

北広島自由キリスト教会 / 房総中央キリスト教会 / 大佐和キリスト教会 / 町田純福音教会 / 鶴見純福音教会 / 横浜フィラデルフィヤ教会
磯子フィラデルフィヤ教会 / 金沢フィラデルフィヤ教会 / 横須賀クリスチャンセンター / 保土ヶ谷純福音教会 神の愛チャペル
大和あがないの丘キリスト教会 / 戸塚カルバリ純福音教会 / 栄シャローム福音教会 / 伊勢原聖書キリスト教会 / 秦野クリスチャンセンター
北アルプスグローバルチャーチ白馬キリスト福音センター / 南アルプスグローバルチャーチ小笠原純福音教会 / 甲府カルバリ純福音教会
富士吉田純福音キリスト教会 / ハーベスト・チャーチ山梨 / 裾野純福音キリスト教会 / 御殿場純福音キリスト教会
富士純福音キリスト教会 グレースチャーチ / 小松ベタニヤ福音教会 / 小松南部キリスト教会 / ホープハウス / 福井自由キリスト教会
文教ゴスペルセンター / 松岡福音教会 / 丸岡福音キリスト教会 / 勝山自由キリスト教会 / 三国自由キリスト教会 / 敦賀自由キリスト教会
武生自由キリスト教会 / 金津福音キリスト教会 / 小浜キリスト福音教会 / 小浜キリスト福音教会三方伝道所 / 高富グレイスチャペル
岐阜純福音教会 / 岐阜純福音白鳥教会 / 岐阜純福音大森チャーチ / 大垣インターナショナル・フルゴスペルチャーチ / 岐阜ライフチャーチ
美濃グレースチャーチ / 岐阜中央チャペル / 本地ガ原自由キリスト教会 / 瀬戸サレム教会 / 滋賀キリスト福音教会 / 守山キリスト福音教会
大津韓国福音教会 / 大津キリスト福音教会 / 田上キリスト教会(大津キリスト福音教会伝道所) / 甲賀キリスト福音教会 / 水口キリスト福音教会
甲西キリスト福音教会 / 雲井キリスト福音教会 / 米原キリスト福音教会 / 綾部キリスト福音教会 / 亀岡ベタニヤ教会
京都キリスト福音教会 / 山科キリスト福音教会 / 深草キリスト福音教会 / 宇治キリストペンテコステ教会 / 木幡キリスト福音教会
大阪キリスト福音教会 / 須磨自由キリスト教会 / 神戸フィラデルフィヤ教会 / 南さつまキリスト福音教会

以上の教会に1部以上を送っています。私たちの願いはすべてのTPKFの信徒が一部ずつ持つことです。

ご意見、ご感想は次のメールアドレスをお願いします。tpkf.pentecost@gmail.com TPKFの公式ホームページ <http://www.tpkf.org/>

<教会情報>

■新しいミニストリー

バングラデッシュにある孤児院を支援する働き「ホープ・オブ・ハウス」が、小山栄児牧師(栄シャローム教会)により始められた。スウェーデンペンテコステのアルバート牧師が設立者。現在374名がキリスト教教育を受けている。

(連絡先: 小山栄児師 045-891-5333)

■第54回TPKF大会

2017年8月10日(木)～12日(土) ミカ・ウリヨラ師(ヘルシンキ、サレム教会牧師)をお招きし、「栗東芸術文化会館さきら」で持たれる。担当はキリスト福音。

■超教派

◎日本ペンテコステネットワーク(JPN)

11月25日(金)アッセンブリーズオブゴッド教団本部で「イスラムとは何か」をテーマに講演会が持たれる。

◎日本リバイバル同盟(議長: 小山大三師)

2017年5月3日～5日日本宣教フェスタが大阪国際会議場グランキューブで開かれる。

講師: ニコ・トラハルジョ師(インドネシア)、イ・ヨンフン師(韓国)、ナタナエル・チョー師(台湾)等5名を予定。

■訃報

横浜フィラデルフィヤ教会 鈴木寿々男牧師 2016年8月26日召天(94歳)

横浜フィラデフィヤ教会では教職者を募集中。

(連絡先: 宮崎一実師 045-781-8242)

